

第26回埼玉放射線学術大会

プログラム集

テーマ

「希望」 ～10年先の未来へ～

開催日 平成23年3月13日

会場 日本医療科学大学

第26回埼玉放射線学術大会

日 時：平成23年3月13日（日） 9:00～15:30

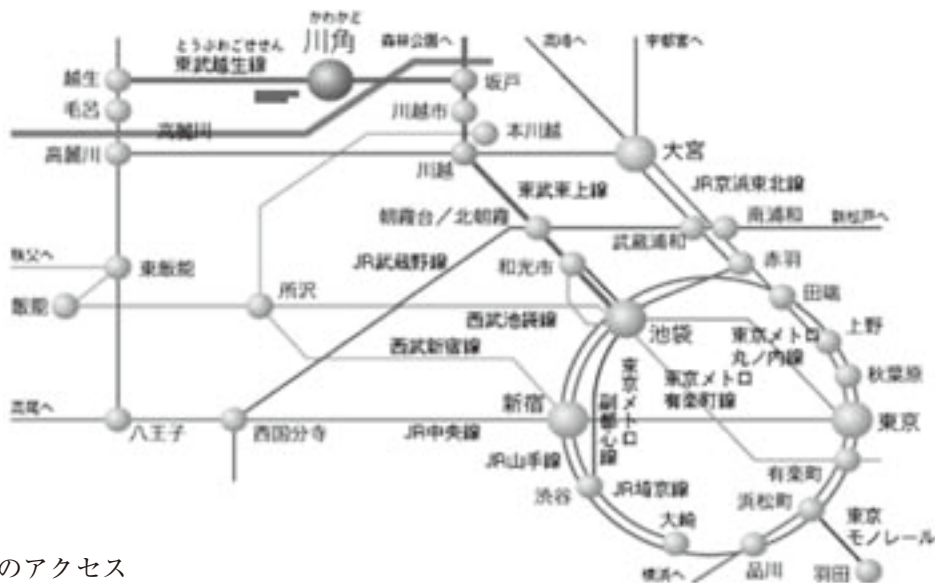
受付開始：8:30～

場 所：日本医療科学大学

〒350-0435 埼玉県入間郡毛呂山町下川原1276

主 催：社団法人 埼玉県放射線技師会

■会場までの交通（電車）案内図■



電車でのアクセス

池袋から東武

●東武越生線「川角駅」下車 徒歩10分

川角駅までの主要駅からの所要時間（乗り換え時間を除く）

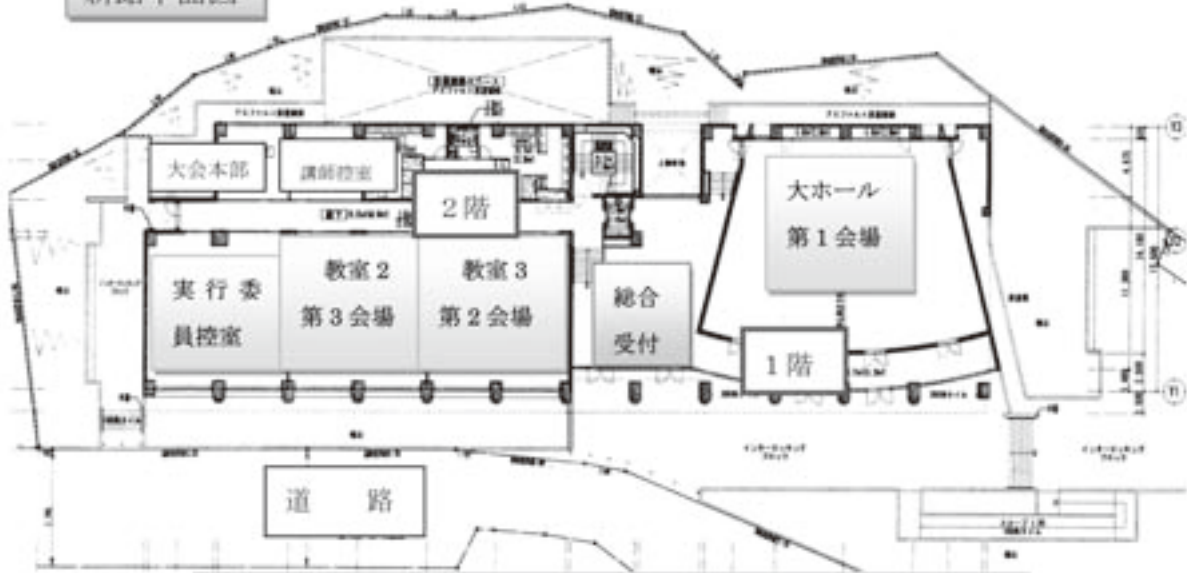
- ・東武東上線「池袋駅」から約55分
- ・東武東上線「川越駅」から約25分
- ・西武新宿線「所沢駅」から約60分
- ・JR埼京線「大宮駅」から約50分
- ・JR武蔵野線・京浜東北線「南浦和駅」から約50分

●自動車の場合

- ・関越自動車道鶴ヶ島インターから約20分
- ・圏央道鶴ヶ島インターから約20分

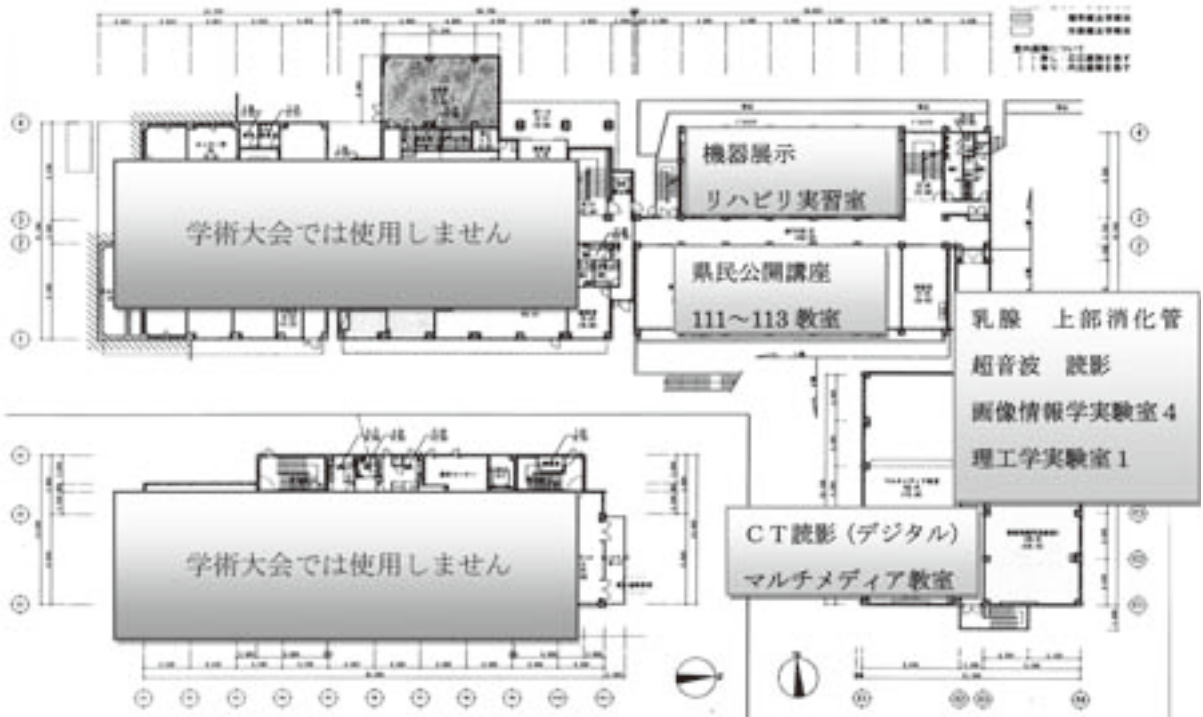
第26回埼玉放射線学術大会会場案内図

新館平面図



新館平面図：総合受付 第1～3会場 大会本部 講師控室

旧館平面図



機器展示 県民公開講座 読影コーナー

第26回埼玉放射線学術大会プログラム

テーマ 「希望」 ～10年先の未来へ～

| 時間 | 第1会場 新館1階メインホール | 時間 | 第2会場 新館2階 教室3 | 時間 | 第3会場 新館2階 教室2 | 県民公開講座 旧館 111、112教室 | 機器展示 旧館 リハビリ テーション実習室 | フィルムリーディング 旧館 マルチメディア教室 理工学実験室1 画像情報学実験室4 |
|---------------------|--|---------------------|--|---------------------|---|---|--|--|
| 8:30 ～ 9:15 | 受付開始 (新館エントランス) | | | | | | | |
| 9:15 ～ 9:25 | 開会式 | | | | | | | |
| 9:25 ～ 10:25 | 大会セッション1 「学生、現役技師会 合同セッション」 座長 越沼 沙織 | 9:30 ～ 10:10 | 演題群 I (一般) 4演題 座長 佐々木 健 | 9:30 ～ 10:00 | 演題群 III (CT1) 3演題 座長 鈴木 佳也 | 骨密度測定 (超音波) 医療被曝相談 他 9:30 ～ 15:30 | 機器展示 賛助 会員 各社 9:30 ～ 15:00 | フィルム リー ディ ング |
| | | 10:10 ～ 10:40 | 演題群 II (RI・MMG・ 教育) 3演題 座長 大森 正司 | 10:00 ～ 10:30 | 演題群 IV (CT2) 3演題 座長 城處 洋輔 | | | |
| 10:40 ～ 11:20 | 特別講演 「日本放射線技師会の現 状と今後」 司会 橋本 里見 講師 日本放射線技師会 副会長 小川 清 | | | | | | | |
| 11:20 ～ 12:10 | 予算総会 | | | | | | | 解説 (学生対象) |
| | | 12:10 ～ 13:10 | ランチョンセミナー1 エーザイ(株) 「海外学会の過ごし方」 演者 富田 博信 | 12:10 ～ 13:10 | ランチョンセミナー2 (株)第一三共 司会 西山 史朗 「リスクマネージメン ト」 演者 手塚 一明 | | | 乳腺 消化管 超音波 胸部CT 9:30 ～ 15:00 |
| 13:20 ～ 14:00 | 学生演題群 I 4演題 座長 堀江 好一 | | | | | | | |
| 14:00 ～ 15:30 | 大会セッション2 「私はこうしてチーム医 療の一員となった」 座長 田中 宏 | 14:00 ～ 15:30 | テクニカルディスカッ ション「乳腺」 座長 新島 正美 | 15:00 | | | | |
| 15:30 | 閉会式 | | | | | | | |

参加登録手続きについて

登録手続きは、午前8時30分より新館エントランス「大会受付」にて開始します。

●登録受付時間

8:30~14:30

●参加登録費

| | |
|------|--------|
| 埼玉会員 | 1,000円 |
| 他県会員 | 1,000円 |
| 賛助会員 | 1,000円 |
| 学生 | 無料 |
| 非会員 | 2,000円 |

●登録方法

- ①埼玉放射線技師会会員の方は会員カードをご持参下さい。
- ②参加登録票にご記入の上、大会受付にご提出ください。
- ③イベントパスをお渡ししますので、会期中は必ず着用をお願いします。(要返却)

演題発表要綱

I 口述演題発表

1. 発表方法

- ① 口述7分（口述終了1分前に緑ランプが点灯、終了時に赤ランプが点灯します）。
- ② 口述発表は、PowerPoint等によるPC発表のみとします。
- ③ 動画がある場合とMacintoshをご利用の場合、ご自身のPCをお持ち込みください。
- ④ 発表データは、CD-R、USBメモリー（ともにWindows限定）でお持ち込みください。それ以外のメディアは受付できませんのでご注意ください。
- ⑤ 発表データ登録は、セッション開始30分前までに下記会場にて済ませてください。また、発表時間の15分前までに次演者席にご着席ください。
- ⑥ プログラムの円滑な進行のため、時間厳守をお願いします。
- ⑦ 会場では各演者ご自身で演台上の機材を用いてスライドの操作をしていただきます。（係員もおりますので、ご不明な点はお尋ねください）
- ⑧ 発表は1面投影です。

2. 演題受付

場 所：新館エントランス「大会受付」に演者受付を設置いたします。

時 間：3月13日（日）午前8時30分より開始

3. 発表者の方へ

■パソコンを持ち込まれる方へ

- ① OSは、Windows（Windows2000以降）またはMacintosh（Mac OS 9以降）の双方に対応します。
- ② 演者受付でケーブルの接続を確認してください。
- ③ 事務局ではD-sub15ピン（ミニ）のケーブルを用意します。
- ④ 一部のPCでは本体付属のコネクターが必要な場合がありますので、必ず持参してください。
- ⑤ 事前に各自（自宅・職場等）のPCから外部モニターに正しく出力できることを確認してください。個々のPCやOSにより設定方法が異なります。
- ⑥ 画面の解像度はXGA（1024×768、60Hz）です。このサイズより大きい場合、スライドの周囲が切れてしまったり、映らない場合がありますのでこのサイズ以外の解像度の使用はお控えください。
- ⑦ スクリーンセーバーと省電力設定は事前に解除しておいてください。
- ⑧ 会場にて電源コンセントをご用意しておりますので、PC用ACアダプター等、電源コードを必ずお持ちください。
- ⑨ 念のためバックアップデータとして、CD-RもしくはUSBデータを必ずお持ちください。データ形式等は、以下の「データを持ち込まれる方へ」をご参照ください。

- ⑩ 発表後は、会場内（発表演台の近くにオペレータがおります）にて、PCを返却いたします。

■データを持ち込まれる方へ

- ① 事務局で用意するPCのOSは、Windows XPです。
- ② プレゼンテーションソフトは、Microsoft PowerPoint 2003をご用意します。フォントはOS標準のもののみをご用意します。これ以外のフォントを使用した場合は、文字・段落のずれ・文字化け・表示されないなどのトラブルが発生する可能性があります。
Microsoft PowerPoint 2007をお使いの方はPowerPoint 2003へのバージョンダウンをお願いいたします。
- ③ お持ち込みいただくメディアは、CD-RもしくはUSBメモリーでお願いします。
- ④ 発表データをCD-Rにコピーする時には、ファイナライズ（セッションのクローズ・使用したCDのセッションを閉じる）作業を必ず行ってください。この作業が行われなかった場合、データを作成したPC以外でデータを開くことができなくなり、発表が不可能になります。パケットライト方式のCD-Rは使用できません。
- ⑤ 持ち込まれるメディアには、当日発表のデータ（完成版）以外入れないようにしてください。
- ⑥ 必ず事前にご自身でウイルスチェックを行ってください。
- ⑦ 大会終了後、4月30日までに発表後抄録の提出をお願いいたします。

II 一般演題座長の皆さまへ

- ① 新館エントランス「大会受付」にて大会参加登録をお願いします。
- ② 担当セッション開始20分前までに新館エントランス「座長受付」で受付を済ませ、次座長席にご着席ください。
- ③ 各セッションの進行に関しましては、担当の座長に一任いたしますので、割り当て時間を厳守していただきますようお願いいたします。
- ④ 大会終了後、4月30日までに座長集約の提出をお願いいたします。

III ランチョンセミナー講師の皆さまへ

- ① ランチョンセミナー講師の方は大会登録は必要ありません。
- ② 担当講演開始30分前までに新館エントランス「講師受付」にて受付をお願いします。
- ③ 受付後は、担当係員がご案内します。

IV ランチョンセミナー座長の皆さまへ

- ① 新館エントランス「大会受付」にて大会参加登録をお願いします。
- ② 担当講演開始30分前までに、講師同様、新館エントランス「座長受付」にて受付をお願いします。
- ③ 受付後は、担当係員がご案内します。

V テクニカルディスカッションの演者・座長の皆さまへ

- ① 新館エントランス「大会受付」にて大会参加登録をお願いします。
- ② 新館エントランス「講師受付」にて受付をお願いします。
- ③ 受付後は、担当係員がご案内します。
- ④ 大会終了後、4月30日までに座長集約及び発表後抄録の提出をお願いいたします。

VI 発表後抄録について

- ① 一般演題演者、一般演題座長、テクニカルディスカッション演者、テクニカルディスカッション座長の皆さまは4月30日までに発表後抄録の提出をお願いいたします。
- ② 一般演題演者の皆さまはMicrosoft Word、A4 1ページ以内でお願いいたします。
- ③ 一般演題座長、テクニカルディスカッション演者、テクニカルディスカッション座長の皆さまはMicrosoft Word、A4 2ページ以内でお願いいたします。
- ④ 発表後抄録の送付は電子メールのみとし、送付先は下記の通りとします。

提出先： 〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町2丁目51番39
 社団法人 埼玉県放射線技師会 学術 宛
 E-mail : h-tomita@sart.jp

■大会セッション1

1F 第1会場 9:25~10:25

学生から見た診療放射線技師像と 現役から見た実際の現場を踏まえた 診療放射線技師像について

座長 済生会習志野病院 越沼沙織

診療放射線技師養成学校に入り、どんな技師になりたいか、どんな病院で働きたいか、どのモダリティをやりたいか等、一度は考えると思います。そして、診療放射線技師になってみて、理想通りの人、理想と違う人、様々だと思います。そこで、現役の学生さんから理想の診療放射線技師像をお話していただき、現役でSpecialist（スペシャリスト）、Generalist（ゼネラリスト）として活躍されている診療放射線技師から実際の現場についてお話していただきます。これから診療放射線技師を目指していく学生さんに参考としていただけるように企画しました。会場でのディスカッションも予定しています。

皆さまの参加をお待ちしています。

■テクニカルディスカッション

2F 第2会場 14:00~15:30

乳腺検査

| | | | |
|----|----------------------------------|----|-----------------------|
| 座長 | 埼玉協同病院 | 新島 | 正美 |
| 演者 | 小川赤十字病院 大塚プレストクリニック 熊谷総合病院 | 江守 | 亜矢子 堀江 直子 白石 広子 |

近年、乳癌の罹患者数は増加しており、年間4万人にのぼり、死亡者数も1万人を超えています。日本人女性の16人に1人が乳がんにかかるとの報道もありますが、乳がん検診受診率は20%と低いのが現状です。逆に考えれば、受診者はまだまだ増加するといえます。そこで、今回のテクニカルディスカッションでは乳腺検査の基本にたちかえり、マンモグラフィ標準撮影法、超音波検査法、マンモグラフィ追加撮影法について行ないます。

病変を見つけるための存在診断はもちろん、病変の性質や範囲を知るための性状診断を経て治療方針が決定されます。日常の乳腺検査を行うためには、カテゴリー分類だけでは診断に不十分であるケースを経験します。乳腺検査の流れや診断方法、治療方法を理解したうえで我々が検査を行い、患者さん1人1人の診断を決定するとともに今後を決めるための画像をいかに提供できるかが大切となります。

今回の基本的な3つの検査方法の重要性をパネリストと参加者の皆さんでディスカッションしていきたいと思います。

乳腺検査に興味のある方やこれから乳腺検査を始める方、検診やドック健診に従事している方、学生、初級者や上級者などの経験は問いませんので、是非ご参加ください。

■ランチョンセミナー1・2

2F 第2会場 12:10~13:10
エーザイ(株)

2F 第3会場 12:10~13:10
(株)第一三共

MEMO

MEMO section with horizontal dashed lines for writing.

Table-Of-Contents on the right side of the page listing various sections like 巻頭言, 公示, 告知, etc.

■大会セッション2

1F 第1会場 14:00~15:30

私はこうしてチーム医療の一員となった

座長 (社) 埼玉県放射線技師会
常任理事 田中 宏

平成22年4月30日付けで厚生労働省医政局長から各都道府県知事宛に「医療スタッフ協同・連携によるチーム医療の推進について」の通達があった。その中で診療放射線技師については以下の行為が明記された。

- ・ 画像診断における読影の補助を行うこと
- ・ 放射線検査等に関する説明・相談を行うこと

今、私たち診療放射線技師に最も必要なことは医師を含めた医療スタッフとの信頼関係を築くことである。その為には患者の情報を共有し、医療の協同作業が必要不可欠である。

どのようにして信頼関係を構築すればよいか、その為には何をしなければならないか、会場の皆様と活発なディスカッションができれば幸いである。

演者

1. 小川赤十字病院 松本 洋栄 (まつもと ひろえ)



技師歴19年

検診マンモグラフィ撮影認定技師 第1種放射線取扱主任者
放射線管理士

2. さいたま赤十字病院 岡田 智子 (おかだ さとこ)



技師歴3年

検診マンモグラフィ撮影認定技師

3. 丸山記念総合病院 木村 浩明 (きむら ひろあき)



技師歴8年

検診マンモグラフィ撮影認定技師

4. 済生会川口総合病院 志藤 正和 (しとう まさかず)



技師歴10年

第1種放射線取扱主任者 放射線機器管理士 放射線管理士
医用画像情報管理士 医療情報技師



県民公開講座

第26回埼玉放射線学術大会

頸動脈超音波について

講師：田中 宏氏 (埼玉県放射線技師会 常任理事)

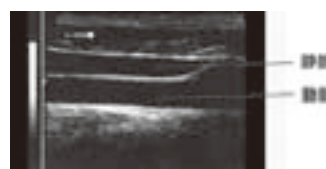
入場無料お気軽にお越し下さい!

日時：平成23年**3月13日**(日)

第1回目 9:30 ~ 9:50

第2回目 10:30 ~ 10:50

会場：日本医療科学大学 旧館1階 111-113教室
埼玉県入間郡毛呂山町下皮原1276 049-294-9000 (代表)



当日は「頸動脈の超音波測定」と「骨密度測定」を無料で体験できます。



主催 社団法人 埼玉県放射線技師会
問い合わせ先 TEL 048-664-2728 (9:00~15:00)
月~金(祭日を除く)

■一般演題目次

■一般

演題群 I

2F 第2会場 9:30~10:10

座長 上尾中央総合病院 佐々木 健

① 腰椎正面撮影時における線量管理指標の検討

済生会川口総合病院 豊田 奈規

② REX値について -検出器到達線量とREX値の関係-

済生会川口総合病院 丸 武史

③ 手術時における体内異物残存確認を目的としたX線撮影とその評価に関する検討

埼玉県立小児医療センター 北井 亜梨沙

④ CT画像を用いた一般撮影ポジショニングマニュアル作成の試み

埼玉医科大学病院 櫻井 葵

■RI・MMG・教育

演題群 II

2F 第2会場 10:10~10:40

座長 さいたま赤十字病院 大森 正司

⑤ 123I-IMPを用いた小児脳血流シンチにおけるARG法とFU法の比較検討

埼玉県立小児医療センター 辻村 明日香

⑥ ステレオガイド下マンモトーム生検における集計と追跡調査-

埼玉医科大学病院 小川 真理子

⑦ 埼玉県内の診療放射線技師における卒後教育の調査

埼玉県放射線技師会第6地区 榎本 雅彦

■一般演題目次

■CT①

演題群Ⅲ

2F 第3会場 9:30~10:00

座長 埼玉医科大学総合医療センター 鈴木 佳也

⑧ 当院撮像プロトコルにおける冠動脈CT被曝線量の現状

所沢ハートセンター 柴 俊幸

⑨ 高心拍数冠動脈CTに対するLow Beam Pitch撮影プロトコルの使用経験

所沢ハートセンター 柴 俊幸

⑩ 心電図同期Axial scanに於ける被曝低減に向けた至適Padding timeの検討

上尾中央総合病院 滝口 泰徳

■CT②

演題群Ⅳ

2F 第3会場 10:00~10:30

座長 済生会川口総合病院 城處 洋輔

⑪ スムーズフィルタ処理の物理特性

埼玉医科大学病院 高橋 忍

⑫ バックボードが頭部CT画像の物理特性に与える影響

埼玉医科大学総合医療センター 大根田 純

⑬ 回転中心外における四肢CTのASiRを用いた画質改善の検討

上尾中央総合病院 石井 建吏

■学生演題目次

■学生セッション

学生演題群 I

1F 第1会場 13:20~14:00

座長 社会保険大宮総合病院 堀江 好一

① 乳癌の乳房温存術後高線量率組織内照射について

日本医療科学大学 磯野 麻衣子

② 甲状腺摂取率測定とその症例について

日本医療科学大学 長谷川 彩

③ 心臓カテーテル検査における被曝線量について

日本医療科学大学 梅堀 貴史

④ Hepatocellular carcinomaにおけるTranscather arterial embolizationについて

日本医療科学大学 小谷 智一

一般演題抄録

セッション I～IV

巻頭言

公示

会告

お知らせ

総会資料

学術大会

共同企画

学術特集

(学術)
原著

動本
会
き
の

掲各
示地
板区

自由
投稿

議
事
録

動会
員
向
の

役員
名簿

投稿
規定

シ年
コ間
ール
スス
ケ

申F
込A
書X

1 腰椎正面撮影時における線量管理指標の検討

○豊田 奈規 丸 武史 土田 拓治 佐々木 正幸
 済生会川口総合病院

【要旨】

〔目的〕 X線感度指標値（以下REX値）が線量管理の指標にできるかを腰椎正面撮影時において検討する
 〔方法〕 PMMAファントムとボランティアの被写体厚特性、REX値をそれぞれ比較した
 〔結果〕 腹厚と線量の良い相関がとれ、REX値も400付近の値をとった
 〔結語〕 今回、階調曲線はリニアに設定した。実際の現場では階調曲線を変化させていて、それによりREX値は変動する。今後は臨床画像の適応について検討したい。

2 REX値について 一検出器到達線量とREX値の関係一

○丸 武史 豊田 奈規 土田 拓治 佐々木 正幸
 済生会川口総合病院

【要旨】

〔目的〕 装置のX線感度指標値を用いて、検出器到達線量の管理が行えるか検討した。
 〔方法〕 X線感度指標値（キヤノン社製CXDIの固有感度指標値；以下REX値）と検出器到達線量の関係を調べた。
 〔結果〕 REX値と検出器到達線量の直線性は確認できた。
 〔考察〕 本検討によりREX値は線量管理の指標に利用できる。

3 手術時における体内異物残存確認を目的としたX線撮影とその評価に関する検討

○北井 亜梨沙 藤田 茂 田中 宏 原田 昭夫
 埼玉県立小児医療センター

【要旨】

一般的に手術時の体内異物残存は、手術に関連した医療事故の上位を占めており、その防止対策の一手段として必要時にX線撮影が実施されている。そこでわれわれは、体内異物残存の確認を目的としたX線撮影について、手術時に使用される物品をリストアップし、肺野と縦隔についてX線フィルム上の描出能を検討した。処理条件は当センターで通常使用されているパラメータを使用した。

4 CT画像を用いた一般撮影ポジショニングマニュアル作成の試み

○櫻井 葵 和田 幸人 平野 雅弥
 後藤 正樹 河崎 浩明 高橋 将史
 埼玉医科大学病院

【要旨】

当院では、撮影技術の修得を目的とした一般撮影マニュアルを作成し活用しているが、関節撮影においては再撮影の割合が比較的高いため、ポジショニングの修正には経験を必要とする。そこで、MDCTで撮影したデータをRay sum (ray summation) 法を利用し3D表示させ、単純X線写真に類似した画像を作成した。この画像を利用して、角度の違いによる修正パターンを取り入れたマニュアルを作成したので報告する。

5 123I-IMPを用いた小児脳血流シンチにおけるARG法とFU法の比較検討

○辻村 明日香 田中 宏 松本 慎 原田 昭夫
 埼玉県立小児医療センター

【要旨】

123I-IMP脳血流シンチの脳血流測定法は動脈採血を用いるAutoradiography (ARG) 法や投与直後の脳・肺から全脳摂取率を求め脳血流量を推定するFractional Uptake (FU) 法がある。当院では検査対象患児の約8割が乳幼児のため精度の良い動脈採血が困難な場合がある。動脈採血が困難な場合、ARG法より低侵襲なFU法から推定した値が小児脳血流量として有用であるか検討した。

6 ステレオガイド下マンモトーム生検における集計と追跡調査

○小川 真理子 橋本 利恵子 安江 章則
 山崎 富雄 和田 幸人
 埼玉医科大学病院

【要旨】

当院では、マンモトーム装置が導入されてから約5年間、計86名の検査を施行してきた。マンモトーム検査毎に次回への課題や検査内容の反省等を話し合う目的の為、生検結果の確認、石灰化の位置、形態、分布、カテゴリー分類等を集計してきた。生検結果が悪性となった組織に対しては、生検病理と手術後の病理を比較し、良性となった組織に対しては、最大5年間の追跡調査を行ってきた。今回この結果について報告する。

7 埼玉県内の診療放射線技師における卒後教育の調査

○榎本 雅彦 横山 寛 辻村 明日香
 佐々木 健 北沢 健司 石川 直哉
 埼玉県放射線技師会第6地区

【要旨】

診療放射線技師（以下技師）における学生教育は、各種学校から大学へと変わり、近年では社会人修士を取得する機会が増えた。しかしながら、卒後新人教育および生涯教育のシステムは職場ごとに異なるのが現状である。そこで、埼玉県内の会員の勤務する職場を対象とし教育システムのアンケート調査を行ったので報告する。

8 当院撮像プロトコルにおける冠動脈CT被曝線量の現状

○柴 俊幸 大西 圭一
所沢ハートセンター

【要旨】

機器の発達により件数が増加傾向にある冠動脈CTであるが、被曝線量の高さが指摘されているものの、その撮影条件は標準化されていない現状があり、メーカー推奨条件や経験により撮影条件を決定していることが多く見受けられる。施設により使用機器や検査目的は様々であるが、施設間の撮影条件の適正化の一助を目的として当院プロトコルを提示するとともに、過去に行った検査の被曝線量の現状を報告する。

9 高心拍数冠動脈CTに対するLow Beam Pitch撮影プロトコルの使用経験

○柴 俊幸 大西 圭一
所沢ハートセンター

【要旨】

近年、2管球装置やガントリ回転速度の向上により冠動脈CTにおける時間分解能が向上し、心拍数の適応も広がったが、64列single source MDCTでは高心拍数症例においては未だ時間分解能不足による評価不能症例が認められる。そこで時間分解能向上を目的とし、従来よりもBeam Pitchを小さくしたLow Beam Pitch CTプロトコルを高心拍数症例に対して試みたため、その使用経験を報告する。

10 心電図同期Axial scanに於ける被曝低減に向けた至適Padding timeの検討

○滝口 泰徳 佐々木 庸浩 佐々木 健
太田 陽一郎 佐々木 和義 田中 武志
上尾中央総合病院

【要旨】

当院では、平成21年8月よりGE社製64列CT装置のバージョンアップに伴い心電図同期Axial scanによる撮影が可能となった。これによりHelical scanに比べ被曝低減となることは明らかだが、更なる被曝低減に向けた心拍数毎のPadding timeの検討を行ったので報告する。

11 スムーズフィルタ処理の物理特性

○高橋 忍 林 洋希 紀陸 剛志 岡本 泰正
戸矢 雅人 渡部 進一 和田 幸人
埼玉医科大学病院

【要旨】

CT検査では、X線管球に掛かる連続した過度な高負荷によりノイズ増加を招き、撮像画像にて、低コントラスト分解能の著しい低下がみられる事がある。低コントラスト分解能向上の為のフィルタ処理として、シーメンス社製装置では、ASA、LCEの2種のスムーズフィルタ処理があり、このフィルタ処理の物理特性について検討したので報告する。

12 バックボードが頭部CT画像の物理特性に与える影響

○大根田 純 中根 淳 河原 剛 小林 芳春
埼玉医科大学総合医療センター

【要旨】

外傷初期診療ガイドラインの付属DVDにおいて、切迫するDysfunction of CNSに対するSecondary surveyでバックボードを外さずに頭部CTを施行するシナリオが示されている。しかし当院における高度救命救急センターでは日常的にバックボードを外してCT検査が施行されている。そこで頭部CTにおいてバックボード本体及びその付属品が画像に与える影響を把握する為、CT性能評価用ファントムを用いて物理特性を測定し検討したので報告する。

13 回転中心外における四肢CTのASiRを用いた画質改善の検討

○石井 建史 佐々木 庸浩 佐々木 健
佐々木 和義 田中 武志
上尾中央総合病院

【要旨】

当院では整形外科の手術前、医師によって3D画像を作成することが多くなっている。そのため、以前は精細な3D画像を作成し提出していたが、今後は3D作成に適したAxial画像を提出する必要がある。しかし、四肢CTでは回転中心に患部を配置できないことが多く、画像の劣化を伴ってしまう。そこで、今回は逐次近似法を応用した画像再構成法（ASiR）による四肢CTの画質改善を目的とし、検討を行ったので報告する。

学生演題抄録

1 乳癌の乳房温存術後高線量率組織内照射について

○磯野 麻衣子 市川 真澄 中谷 儀一郎 望月 安雄
 上田 大輔 中村 修 浦橋 信吾
 日本医療科学大学 保健医療学部 診療放射線学科

【要旨】

乳癌温存術後の予防照射としてAPBIは治療日数が5日と少なく、腫瘍に限局して照射するため皮膚や肺などのリスク臓器の被曝線量を抑制でき、整容性がよいという利点がある。しかし、麻酔薬によるアレルギーや感染症といった欠点がある。現在は臨床試験の段階なので治療法として確定はしていないが、将来有用な治療法になると考察できた。

2 甲状腺摂取率測定とその症例について

○長谷川 彩香 市川 真澄 中谷 儀一郎 望月 安雄
 上田 大輔 新藤 博明 坂本 重巳
 日本医療科学大学 保健医療学部 診療放射線学科

【要旨】

$^{99m}\text{TcO}_4^-$ を用いた場合のカウントと Na^{123}I カプセルを用いた場合のカウントを測定し、それぞれ測定したカウントから甲状腺摂取率を算出した。その後症例を比較し、 ^{131}I 治療についての評価を行った。考察の結果、 $^{99m}\text{TcO}_4^-$ は甲状腺機能低下症、 Na^{123}I カプセルでは甲状腺機能亢進症が適していると考えられる。

3 心臓カテーテル検査における被曝線量について

○梅掘 貴史 中谷 儀一郎 望月 安雄
 市川 真澄 上田 大輔 小川 互
 日本医療科学大学 保健医療学部 診療放射線学科

【要旨】

近年、食の欧米化などに伴い、虚血性の心疾患が増加傾向にある。外科手術などと比べて侵襲性が少なく、身体への負担も少ない心臓カテーテルによる検査や治療が多く行われている。しかし、X線の透視下で術式が行われるため、X線被曝が問題となっている。そこで、実際に心臓カテーテル検査ではどれほど被曝しているのかを測定し考察した。

4 Hepatocellular carcinomaにおける Transcather arterial embolizationについて

○小谷 智一 鈴木 保 中谷 儀一郎 望月 安雄
 市川 真澄 上田 大輔 岡本 浩
 日本医療科学大学 保健医療学部 診療放射線学科

【要旨】

血管造影室はチーム医療の観点からとても興味を持ったと共に、技師が重要な役割を担っている。中でもTAEはHCCにおいて外科的アプローチと同等の治療効果を有し、かつ低侵襲で患者の身体的負担も少ないことから今後も需要が高まると考えられ、その知識を深めることは大切であると思ひ考察した。